

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第96号

[2017年6月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第96号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）スタディーツアー開催のお知らせ

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



メータオ・クリニック支援の会（JAM） スタディーツアー開催のお知らせ

今年度のスタディーツアー日程が決定致しました！

いつも会報や報告会を通じてお伝えしているメータオ・クリニックや移民学校のこと。

写真や言葉では伝えきれないものが、現地にはたくさんあります。

この機会にぜひ、当会スタッフとともに現地を訪れ、肌で感じてみませんか？



ツアー参加のみなさんを歌で迎えてくれる移民学校の生徒たち

<ツアーの概要>

【日程】平成29年9月11日（月）～平成29年9月16日（土）

【場所】タイ王国北西部メソット市

【活動内容】

- メータオ・クリニック訪問
- 難民キャンプ訪問
- ビルマ／ミャンマー移民学校訪問
- 国境観光

【参加費用】8万円（往復航空券は含まれておりません）

※募集途中で大きな為替変動があった場合には、参加費が変更になることもございます。ご了承ください。

【定員】8名

【申込締切】7月20日（木）

【お申込方法】

以下を明記の上、申込みする旨をメールで support@japanmaetao.org（担当：神成）へお送り下さい。

メールタイトル 「2017年スタディーツアー申込み」

- (1) 氏名
- (2) 住所（都道府県のみで結構です）
- (3) 年齢
- (4) 職業
- (5) その他ご希望があれば記載してください。



メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



READY FOR プロジェクト終了報告

この度は、当会のメータオ・クリニックにおける看護ケア事業へ皆さまからのあたたかいご支援ありがとうございました。皆さまからお預かりした支援金で、メータオ・クリニックへの医療材料の寄付や現地での看護ケア支援活動を実施することができました。スタッフ一同、心より御礼申し上げます。

<収支報告>

【収入】

今回 300 万円を目標としてみなさまにご支援のお願いをしておりましたが、おかげさまで 3,964,000 円ものご支援を頂きました。ありがとうございます。

【支出】

- ・上記医療材料類購入費用※ 887,766 円 (279,811 タイバーツ)
- ・JAM 現地派遣員の渡航費、滞在費用 605,693 円
- ・事業評価に関わる費用(日本事務局員派遣滞在費用など) 655,052 円
- ・READYFOR 関連費用(手数料やリターン発送費用など) 1,014,548 円
- ・その他、雑費や研修に必要な費用 800,671 円

※医療材料類内訳

クリニックのニーズに合わせて、当初の予定より一部変更させていただきました。

【オートクレーブ】269,679 円 (85,000 タイバーツ)：傷の処置やケアに使う道具を滅菌する機械



【小児用看護演習モデル】96,767 円 (30,500 タイバーツ)：模擬練習のためのモデル



【エアーマットレス】6台 131,984円 (41,600 タイバーツ)
エアーマットレスが使えるようになったことで、長期入院の患者さんも床ずれすることなく、安楽に過ごせるようになりました。



【手拭きタオル】1000枚 11,104円 (3,500 タイバーツ)
手洗い毎に新しいタオルを使用することで、スタッフや患者さんの手指を衛生的に保つことができるようになりました。(使用後は洗濯、乾燥をさせて再度利用します。)



【歩行器】15,911円 (5,015 タイバーツ) : 患者さんの歩行訓練用
歩行器の導入によって、できるリハビリの種類が増えました。



【ノートパソコン】79,317円 (25,000 タイバーツ) : 資料作成や会議／講義で使用

【プロジェクター】79,000円（24,900タイバーツ）：会議／講義で使用

【清掃道具、衛生器具】141,819円（44,700タイバーツ）：病棟の環境整備と衛生的なケアの実施に使用

【バイク】63,459円（20,000タイバーツ）：現地派遣員の移動用
バイクが利用できるようになったことで、様々な業務をこなす現地派遣員の移動が楽になりました。

<事業実施報告>

今年1月に、当会より看護師の神谷友子を現地へ派遣し、メータオ・クリニックにおける看護ケアのサポートを行いました。

【看護アセスメントシート】患者さんの健康状態や必要な看護ケアを知るためのアセスメントシートを使っての情報収集を一緒に実施しました。

【看護計画】上記アセスメントシートから、どのような看護ケアが必要か一緒に考えました。

【看護記録】病棟で実施した看護ケアを記録し、他のスタッフへの引継ぎをどうしたらいいかを一緒に考えました。

【褥瘡ケア】エアマットレスを購入し、皮膚の観察や体位変換など褥瘡に対する看護ケアを一緒に実施しました。褥瘡患者さんの包帯交換を一緒に回ってアドバイスをして改善がみられました。また体位変換をするよう声替えをして習慣づけるように促しました。

【清潔ケア】主に付き添い家族のいない患者さんの体を洗ったり、尿道カテーテルの洗浄の必要性を説明して一緒に実施しました

【食事介助】放置されがちだった付き添い家族のいない患者さんへ食事介助を促しました。

（例：食事のセッティングをして、しっかり食べられるかベッドサイドで見守り介助）

【移乗、リハビリ】患者さんが自分でできることが増えて、介助者の負担が減るようにベットサイドでのリハビリを促し、安全で負担のない移乗を一緒に行いました。

【退院調整】自宅に帰れない患者さんの問題を解決し、自宅へ戻れるように看護ケアスタッフと一緒に働きかけました。

（例：入院時は経管栄養でしたが、家族に説明して摂食訓練を経てごはんが口から食べられるようになりました。この後に気管切開チューブも抜けて無事に退院することができました。）

【看護ケアスタッフ会議】看護ケアスタッフが主体的に病棟での業務を実施することができるよう、一緒に話し合いを行いました。

今年実施予定の第2期看護トレーニングですが、現在準備を進めており7月より実施予定です。受講するスタッフの参加人数は30名程度。講義3か月、演習3か月。このトレーニングの中でいくつかのトピックについてJAMの現地派遣員が講義や演習の指導を担当する予定です。

<リターンの発送状況>

全ての方にサンクスレター、リターン商品を発送させていただきました。（リターン商品の内、シンシア院長からのビデオメッセージ、スタディツアーは現在準備中です。完成次第、個別にご連絡および発送させていただきます。）

<今後について>

現在、現地で活動しているJAMの現地派遣員は9月まで、8月には後任を派遣予定です。



今後の目標として、人材育成支援を継続し看護ケアスタッフの増員と質の向上を図ること、またTOT(Training of Trainers: 指導者研修)の実施などによって現地スタッフが後輩を指導できるようメータオ・クリニックにおける看護ケア支援を引き続きサポートしていきたいと考えています。

今回の看護ケア支援に関しては、引き続き新着情報からも報告させていただく予定ですが、当会のホームページ、Facebookからも活動報告や現地からの情報発信を行っていきます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最近のメソット

皆様 こんにちは。現地より神谷です。

メソットでは、雨季真っ只中の為、雷がゴロゴロ遠くで鳴っているなあ、、、と思っていたら雨が降って来たり、突然の豪雨に慌ててカップを着たり、そんな日が続いています。

クリニックでは、昨年実施した看護トレーニングを、7月より約30名の別のグループのスタッフに開始予定で準備を進めています。3か月間の講義の後に、3か月間、各病棟での実技演習、さらに1か月の外部のタイの病院での実習というスケジュールです。また、看護トレーニング2期生が講義を終えて病棟での演習が始まるまでに、病棟での受け入れ態勢が整えられるようにと、すでに病棟に勤務している一期生の看護スタッフのサポートをしています。

現在、あんのん基金様のご支援があって、クリニックへの褥瘡ケアに使用する、体位変換用の枕と、枕を清潔に保つための枕カバーや、ベットシーツなどの寄付の準備を進めています。枕一つとっても、どんな大きさがいいか、硬さは？値段は？など実際に使う看護スタッフの希望を聞いたり、ミャンマー人看護師の意見を参考にしながら、一緒にマーケットやあちこちのお店を見て回って選んでいます。現地のスタッフに「どっちがいいと思う？」と聞くと、多少質が悪くても「安い方がいい」と答える人が多く、できるだけ安く、でも患者さんが長く心地よく使えるようなものをメソットの小さな町で選ぶのはなかなか困難です。でも、病棟勤務の時間外と一緒に枕や枕カバーの布探しに行ってくれる看護スタッフや、「看護ケアのためなら何でも協力するよ」と言ってくれる優しいミャンマー人看護師キンダミンさん、メソット中のあちこちを探し回ってくれる備品担当部門のスタッフの方々、買い物の為の車を出してくれるドライバー部門のスタッフ、みんな忙しい中で快く協力してくれるのがとてもうれしく思います。

6月5日の世界環境デーの日は毎年、クリニックでは疾病対策健康促進部門を中心に、クリニック周辺地域での清掃活動を行っています。今年もゴミ拾いに参加してきました。クリニックスタッフの多く住む集合住宅地の裏は、ゴミがたくさん捨てられていて、モワっと異臭が漂っています。みんなでゴミを拾って、きれいになった後には野菜の種や苗木を植えました。

最近、クリニックの敷地内では、年に一度だけの清掃活動ではなく、土曜日午後の病棟や外来が落ち着いている時間に、病棟の横に生い茂る雑草を病棟スタッフが草むしりしています。病棟の裏はそれでもまだキレイとは言えず、どうしたらいいかを幹部スタッフが検討していました。

メータオ・クリニックは昨年の5月にここへ移転してきてから1年が経ちました。花や緑が好きなシンシア院長の方針なのか、最初は少し殺風景だった敷地内のあちこちででき



いな花や草木がクリニックを訪れる人を迎えてくれます。新しいクリニックを、きれいに清潔に保ってほしいと思います。

この日は、私の誕生日でもあります。この地域に住むミャンマー人は特にこどもの誕生日は祝ってもらうのではなくて、近隣住人や友人を招いて食事をふるまいます。私も日頃の感謝を込めてクリニックのスタッフのみなさまにアイスクリームをプレゼントしました。みんなを笑顔にするアイスクリームの力は偉大だなと思いました。ここメソトでの活動や滞在では、私が外国人ということもあってたくさんの人が助けてくれます。

あらためて、メソトでの生活を支えてくれているクリニックやメソトの人たち、日本や他の国からも応援してくれている全ての方々に、心よりありがとうございます。

枕とビニールケース。中身が出し入れできるので、取り出して干すこともできるし、汚れても拭いて清潔に保つことができます。



内科病棟スーパーバイザーのエコシさん(右)は、「防水カバー付きの枕が欲しかった!ありがとう」ととてもうれしそうにしています。



ミャンマー人看護師のキンダミンさん。昼食に、毎日のようにクリニック近くのお店でチャーハンを買って食べていたら、「体に悪い!」と毎日のお弁当に私の分も持ってきてくれています。いつもありがとうございます。





クリニックの外来前。昨年引っ越してきたばかりの時は、何も生えていませんでした。昨年の世界環境デーの時に植樹していた場所です。1年でこんなに大きくなりました。私がふだんよくいるオフィスの目の前なので、毎日通りかかって緑の成長を見るのが楽しみです。



クリニックの近くの道。雨の合間に広がる青い空はとてもきれいです。遠く向こうに見えるのはミャンマーの山々。



世界環境デーの清掃活動。勤務終わりや休みのスタッフみんなでゴミ拾いです。この写真では分かりにくいですが、大きな瓶やビニール袋などたくさんのゴミが集まりました。



最近毎日のように通っている？備品担当部門のスタッフと。本当にいつもお世話になっています。

国内から

【東京＝田畑 彩生】

皆さま、平素よりメータオ・クリニック、JAMへあたたかいご支援を頂きありがとうございます。日本事務局でバンコク在住の田畑彩生と申します。

初めてメータオ・クリニックを訪問させて頂いたのは、看護学生の4年生でした。今の様な新しい病棟へ変わる前のメータオ・クリニックは、その当時、地雷で負傷した年齢も若く見受けられる方々も多く、手作りの松葉杖に義足で歩く様子が印象的であったことを覚えています。生まれたての赤ちゃんを抱き、ワクチン外来に並ぶ若いお母さんとお父さん、ビタナツで真っ赤に染まった歯をニッと見せてしわくちゃんな笑顔で話しかけてくれた患者さんのご家族、トラクターで運ばれてくる破水した妊婦さん、泣き止まない小さな赤ちゃんを抱



えて大きな大人に混じって列に並ぶ少女、メータオの外来スタッフが呼ぶ患者さんの名前が突然降るスコールにかき消されました。蒸し暑い混沌とした院内の様子に圧倒されていたのは、2007年の8月でした。命の力強さと儚さに触れ、国境を越え医療を求めて訪れる人々を限りある医療資源の中で精一杯、懸命に「生」と向き合うメータオ・クリニックのスタッフの様子に心打たれたことを覚えています。

現地派遣員として2012年から2014年まで派遣頂いた当時も忙しい診療風景でしたが、クリニックスタッフがあたたかく迎え入れてくれる印象は全く変わりませんでした。しかし、いらっしゃる患者さんの年齢層、疾患が外傷などによる外科的な内容から、国境が開かれた後には、感染症に加え、高血圧や喘息などの呼吸器疾患、脳血管障害、がん、糖尿病などの内科的疾患へと患者層が大きく変化していることを目の当たりにしました。

現在、現地派遣員の神谷と前川事務局長が中心となり活動している看護ケア事業は、このような患者層の変化へ柔軟に対応するための足がかりとなる大切な活動であると感じ、JAMの国境での活動にこの様に参加させて頂けることを嬉しく感じています。

2008年5月よりJAMの活動へ参加し、今年で9年目となりました。現地派遣員としてメソトで活動させて頂き、この様に今もメータオ・クリニックやメータオ・クリニック支援の会を通じ国境の現状に触れ、私は細々とではありますが活動を継続させて頂けますことは感慨深く、皆さまの継続的なご支援に感謝しております。

現在は、バンコクのマヒドン大学公衆衛生大学院にてタイ・ミャンマー（ビルマ）国境地域のデング熱に関する地域研究を実施しています。今回は、このマヒドン公衆衛生大学院での様子やデング熱の研究に関して少しご紹介させて頂きます。

マヒドン大学公衆衛生大学院は1948年に開設、国際コースが1976年より併設され、年間1,400名の学生が卒業しております。私が通っている14ヶ月間の修士課程では、熱帯・寄生虫学や公衆衛生学、疫学、医療統計学、公衆衛生管理学をメインとし、タイ国内の医療保険制度や移民労働者を含む労働環境衛生、高齢化に伴う公衆衛生の課題、戦略的な事業計画立案評価など実践へ応用出来る分野を含め盛りだくさんの課程です。2016年度入学生は東南アジアをはじめ、南アジア、アフリカ、11カ国からの学生が集まりました。主に隣国のミャンマー（ビルマ）からの学生が半分を占める、国際色豊かな大学院です。国境で培ったビルマ語をきっかけに友人の輪が広がります。

今は、この来る6月23日の卒業へ向けて日々研究論文の仕上げに昼夜逆転の毎日です。デング熱の研究では、メータオ・クリニックのあるメソトから車で山を登り降りし5時間程の国境の町ウンパンの病院と地域の皆さんにお世話になりました。ウンパン郡にはウンピャム難民キャンプとヌポ難民キャンプがあり、カレン族が多く住まう国境の地域です。

また地域調査では、GISと言う地図作成のためGPS位置情報を活用し調査させていただき、デング熱ウイルスを媒介する蚊の生息地である、公共の場や屋外環境の改善がウンパン地域でのデング熱予防対策として早急の実施されるべき重点課題である事が明らかになりました。

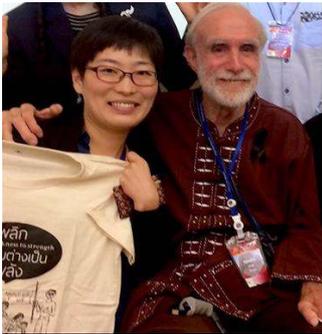
ミャンマー（ビルマ）国境の町では、劣悪な住宅の周辺環境や上下水道が整備されていない場所へ住むミャンマー（ビルマ）移民の方は今もたえず、その様な住環境の改善がデング熱を地域で蔓延させない為の予防へとつながることも、国境での調査で示唆されました。無事にこの研究が大学に認められ、卒業出来たら、改めてウンパンの病院や地域の皆様へご報告に向かいます。

追伸

先日、”where there is no doctor”の著者、デビッド・ワーナーさんのお話を伺う機会をバンコクで頂きました。「地域の人々と起こす、人々のための行動を大切にしてください。」



とありがたいアドバイスを頂戴しました。これからも地域の人々の生活や環境を、健康を考える活動を日本でも国境の町でも継続出来るよう努めてまいります。



あんのん基金様の報告会

6月8日(金)に日蓮宗宗務院にて行われたあんのん基金様の報告会に JAM 日本事務局の鈴木と白壁が参加をしてきました。

各団体の方々から活動紹介や頂いた寄付金による支援内容の報告が行われ、JAM からも「ミャンマー移民による診療所メータオ・クリニックにおける褥瘡ケアの導入と看護ケア実践能力向上の支援」事業の中間報告をさせていただきました。

この度、あんのん基金様からのご支援で、クリニックの病棟に、患者さんの看護ケアに必要な備品を寄付することができました。

寝たきりの患者さんの床ずれができないように、または悪化しないように体を支えるためのクッション材として利用する枕や、その枕カバー、ベッドシーツなどの清潔なリネンをクリニックに届けるよう、現地で調整中です。また、手拭きタオルを乾かすための乾燥機を今回クリニックでは初めて導入しました。洗濯後に干すための十分なスペースがなく、一年の約半分が雨季という地域のため室内でも洗濯物が乾燥しにくい時期に、乾燥機はとても感謝されています。まだ現地での事業を実施しているところですので、事業終了時にまたご報告させていただけたらと思います。

当会では、これからもミャンマー移民・難民の命を支える医療支援を継続していきます。

あんのん基金のポータルサイトにも今回の支援報告に関する記事を載せていただきましたので以下のリンクも参照くださると幸いです。

<http://www.nichiren.or.jp/sp/annon/20170310-1188/>

改めまして日蓮宗あんのん基金の皆様、日頃より JAM を応援してくださる方々のあたたかなご支援に心より感謝申し上げます。

編集後記

気が付いたら、もう6月も終わりに近づいています。先日、帰省したので蛍を見てきました。車のウィンカーをチカチカさせると何匹も集まってきてとても幻想的でした。6月は祝日がないのでなかなか帰省したことはなかったのですが、菖蒲やあじさいがとてもきれいな季節だし、お散



